yamabuki i 通信

yamabuki は、『小学校でのパソコン授業』の URL より
パソコン室から 不定期 発行

No. 1 1 1
平成 20 年 1 月 21 日
情報教育アドバイザー
広田 さち子

情報モラル(5)

情報モラルの指導が、コンピュータやインターネットの外から考えることができる、とは言っても、情報を扱うのがコンピュータ()を使ったインターネットが主である以上、これらについて、正しい知識を持ち、適切な使い方を覚えて、道具として役に立つようにできなくてはなりません。

携帯電話などの端末を含む

先にご紹介した「キックオフガイド」では、情報モラルのカリキュラムについて、次のように5つの柱をあげています。(P.5~7、アルファベットは5大目標内の項目)

1. 情報社会の倫理(a,b)
2. 法の理解と遵守(c)
3. 安全への知恵(d,e,f)
4. 情報セキュリティ(g,h)
5. 公共的ネットワーク社会の構築(i)

『そして、これら健全な心と社会のルールの理解、安全に活用する知恵の育成を前提として初めて、健全で公共的なネットワーク社会の構築へ積極的に参画する態度を育成することができるわけです。』(本文より引用)

引用が多すぎると、冊子を読んだ方が早くなってしまいますので、このくらいにしておきますが、この冊子のWeb版(『やってみよう、情報モラル教育』)には、たくさんの具体的な指導例が公開されています。「おすすめ実践例」(9例)を除き、一つ一つの指導例が、この5本の柱のどの部分になるかは明記されてはいませんが、教科としては生活科と総合、そして道徳が多く紹介されています。どんな教材を使うと、どういう情報モラルの指導ができるか、という大まかな流れがわかります。

情報モラルの指導、というと、「インターネットには危険がたくさんあって、気をつけなくてはならないことにはあれとこれと、それから…」というふうになりがちですが、本質的には、インターネットという仕組みは大変便利で使い出があって、役に立てられるものである、ということを忘れてはなりません。問題は、使う人間にあって、インターネットが危険なものになっている原因となる種をこれ以上増やさない、というのが「情報モラルの指導」だと思います。デジタルデータ(情報)とインターネットという諸刃の剣を安全に使いこなせる技を身につけられるようになりたいものです。

実際の授業の流れを、簡単に見ていきます。